

試験依頼先 財団法人日本食品分析センター
試験成績書発行年月日 平成 21 年 7 月 10 日
試験成績書発行番号 第 209060310-001 号

殺菌効果比較試験結果

○試験条件

試験日時 2009 年 6 月 24 日
天 気 晴れ・温度・湿度は表-3を参照
試験依頼先 財団法人日本食品分析センター 彩都研究所
試験場所 大阪府東大阪市
試験空間 約 9.1m³ (H1700mm×W1760mm×D3050mm)
対象製品 表-1 に示す。

表-1

			
メーカー	弊社OEM同等品YS11DK	S社	P社
型 式	TT11DK オゾン	IG-A100 プラズマクラスターイオン	F-PJD35 ナノイー
風 量	0.44 m ³ /min	1.7m ³ /min	2.0m ³ /min

○試験目的

各製品の除菌効果を確認する。

○試験方法

大腸菌と黄色ブドウ球菌を塗布した寒天平板培地（以下「試験平板」という。）を各製品が設置された同体積の密閉空間に設置し、製品を作動させ、1・2・3・4・5時間ごとに試験平板を取り出し、培養後、試験平板上の生育集落数を測定した。

○試験結果

表-2に記する。

表-2

試験菌	製品	生育集落数 (/枚)					
		試験前	1時間後	2時間後	3時間後	4時間後	5時間後
大腸菌	弊社OEM同等品 YS11DK	305	332	2	0	0	0
	IG-A100	305	318	364	340	309	310
	F-PJD35	305	318	333	339	334	334
黄色ブドウ 球菌	弊社OEM同等品 YS11DK	323	2	0	0	0	0
	IG-A100	323	354	314	323	321	293
	F-PJD35	323	328	342	333	323	298

・ 試験菌

Escherichia coli NBRC 3972 (大腸菌)

Staphylococcus aureus subsp.aureus NBRC 12732 (黄色ブドウ球菌)

・ 菌液の調整

試験菌株を普通寒天培地で $35^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、18~24 時間培養後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が約 $10^3/\text{ml}$ となるように調整し、菌液とした。

・ 試験平板の調整

標準寒天培地 15ml をプラスチックシャーレ ($\phi 90\text{mm}$) に分中し、固化させた後、菌液を 0.1ml 塗布したものを試験平板とした。

・ 試験操作

各試験平板を $35^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ で 2 日間培養後、試験平板上の生育集落数を計測した。

なお、検体未処理の試験平板を作用前とし、同様に試験した。

表-3に 弊社OEM同等品YS11DK (最大オゾン発生量 $50\text{mg}/\text{h}$) のCT値 ($\text{ppm}\cdot\text{min}$) を記する。

表-3

	単位	試験前	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間
室温	$^{\circ}\text{C}$	28.7	30.6	31.5	31.1	30.6	29.9
湿度	%	72	62	55	52	50	51
CT 値 ($\text{ppm}\cdot\text{min}$)	—	0	19.2	66.6	123.6	183	246.9